

「子どもの五感」に関する意識調査
日常的に五感を意識して使えていない「五感難民」が約3人に2人！？
子育て経験者の95%が五感刺激を大切だと考える一方、
その大半が五感刺激を意識した子育て方法を知らないことが明らかに
～ コロナ禍での子どもの五感刺激の希薄化も懸念 ～

世界大手の玩具メーカー、米国マテル社の日本法人であるマテル・インターナショナル株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:マーク・パンサー)は「子どもの五感」に関する意識調査を実施いたしました。

今回の「子どもの五感」に関する意識調査を通して、小さな頃から子どもの五感を刺激することが大切だと思うが、子どもの五感を刺激する遊び方や具体的な方法を知らない人が多くいる実態が分かる結果となりました。

【調査結果概要】

- 1. 日常的に五感を意識して使っていない大人の“五感難民”が約3人に2人！**
一方で、約90%の大人が五感を意識する大切さを感じており、ギャップが生じる結果に。
- 2. 約95%のママパパが、子どもの五感の刺激の必要性を感じ、経験させたいと思っている。**
刺激の重要性を感じる五感の第1位は「触覚」、第2位は「視覚」に。
- 3. 約80%のママパパが五感を刺激する遊びや方法を知らず、**
さらに約70%は、五感の刺激を意識した子育てを行っていないと回答。
2才以下のママパパの考える、五感を刺激する行動第1位は「おもちゃで遊ぶ」。
- 4. コロナ禍において、80%以上のママパパが、子どもの五感を刺激する経験が難しくなったと回答。**
「外出機会の減少」などのコロナ禍の子育てならではの悩みが原因に。
さらに0～3才のママパパの90%以上が、家の中で五感を刺激できる遊びを取り入れたい！

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「マテル・インターナショナル調べ」と明記してください。

【調査概要】

調査対象:0～9才の子どもを持つママパパ 500名

※日常的に五感のすべてを意識して使っているかの調査のみ 20～60代男女 1500名に調査

調査手法:インターネット調査

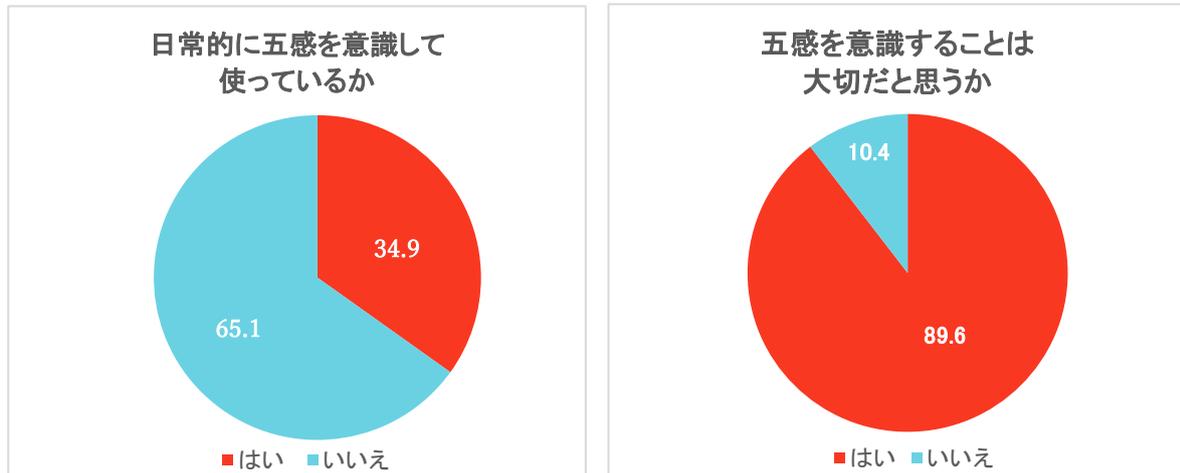
実施期間:2021年9月

1. 日常的に五感を意識して使っていない大人の“五感難民”が約3人に2人！

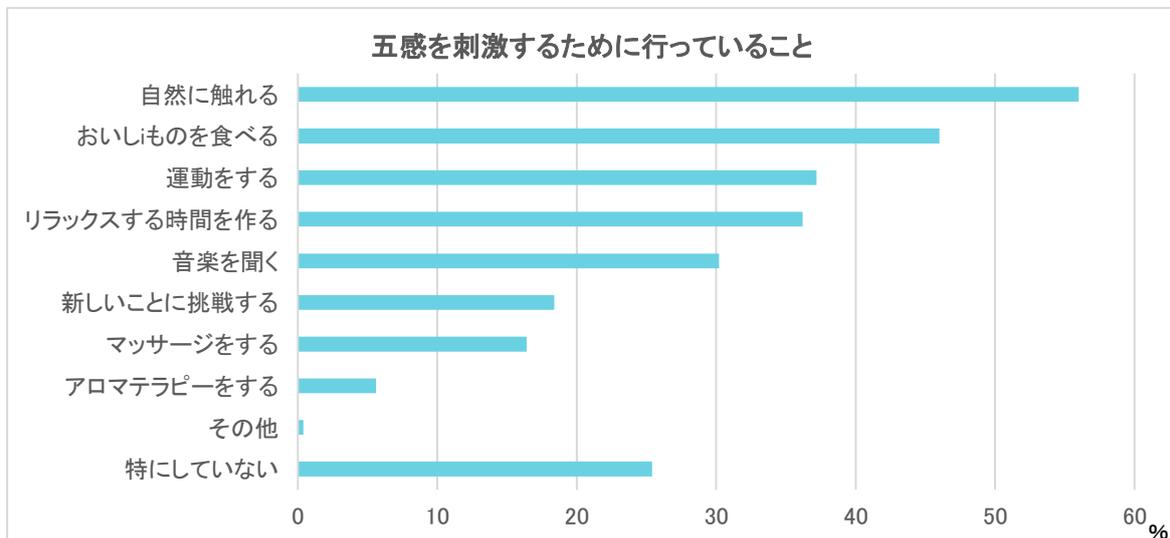
一方で、約90%の大人が五感を意識するの大切さを感じており、ギャップが生じる結果に。

「日常的に五感を意識して使っているか」を調査したところ、20代～60代の男女のうち65.1%が「いいえ」と回答し、約3人に2人にのぼることが明らかになりました。この結果と日本の人口から算出すると、日常的に五感を意識して使えない大人の“五感難民”が全国で5,075万人いると推定されます。

その一方で、五感を意識することは大切だと89.6%が思っており、大切と思いながらも五感を使えないというギャップが生じていることが分かりました。



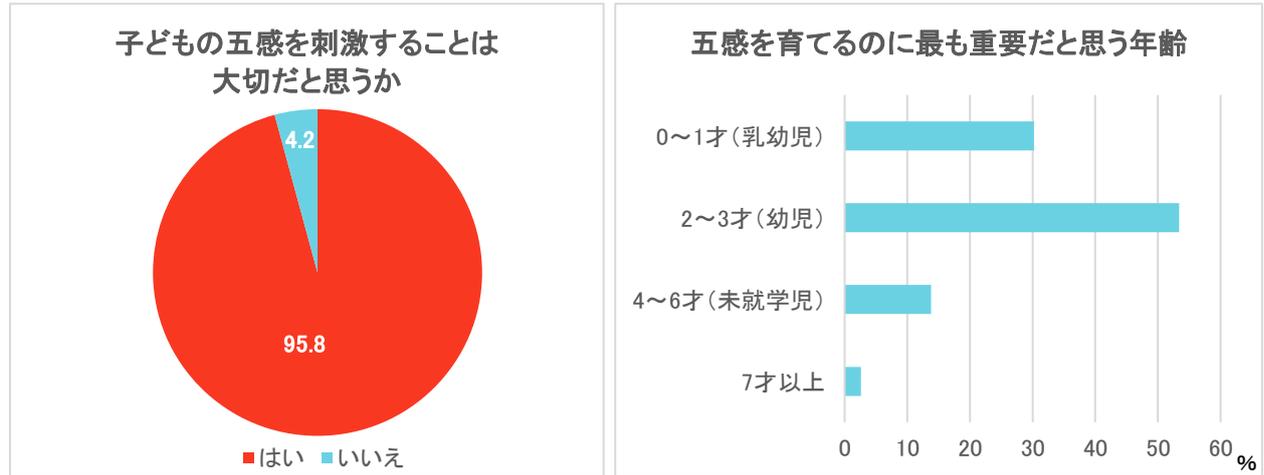
また、大人が五感を刺激するために行っていることの第1位は「自然に触れる(56.0%)」、第2位は「おいしいものを食べる(46.0%)」となりました。さらに、「特にしていない」と回答したのは25%となり、70%以上が何かしら五感を刺激するために行動をしていることが分かりました。



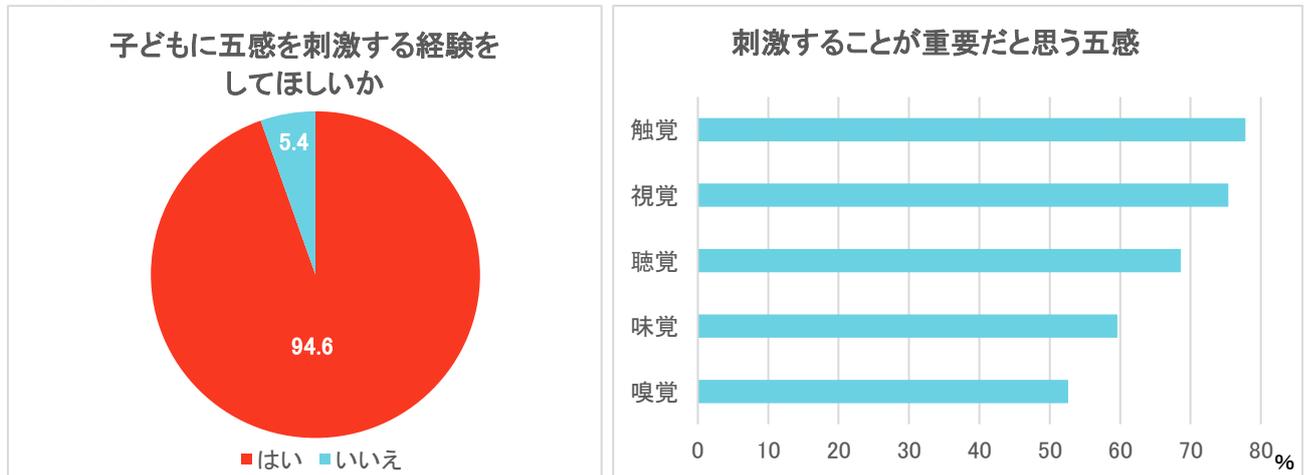
2. 約 95%のママパパが子どもの五感刺激の必要性を感じ、経験させたいと思っている！

刺激の重要性を感じる五感の第1位は「触覚」、第2位は「視覚」に。

0～9才の子どもを持つママパパに、子どもの五感を刺激することは大切だと思うかについて調査したところ、95.8%が「はい」と回答し、子どものうちから五感の刺激が必要だと思っていることが分かりました。さらに、五感を育てるのに最も重要な年齢は「2～3才(幼児)(53.4%)」と半数以上が答えました。しかし、一般的には五感を育てるのに「0～1才(乳幼児)」が重要とも言われる中で、正しい認識があまり広まっていないことが伺えます。



さらに、94.6%のママパパが、子どもに五感を刺激する経験をしてほしいという結果になりました。また、五感のうち刺激することが重要だと思うものを調査すると、第1位は「触覚(77.8%)」、第2位は「視覚(75.4%)」、第3位は「聴覚(68.6%)」と続きました。どの感覚も半数以上が刺激の重要性と感じており、各感覚を刺激していくことを求めていると考えられます。

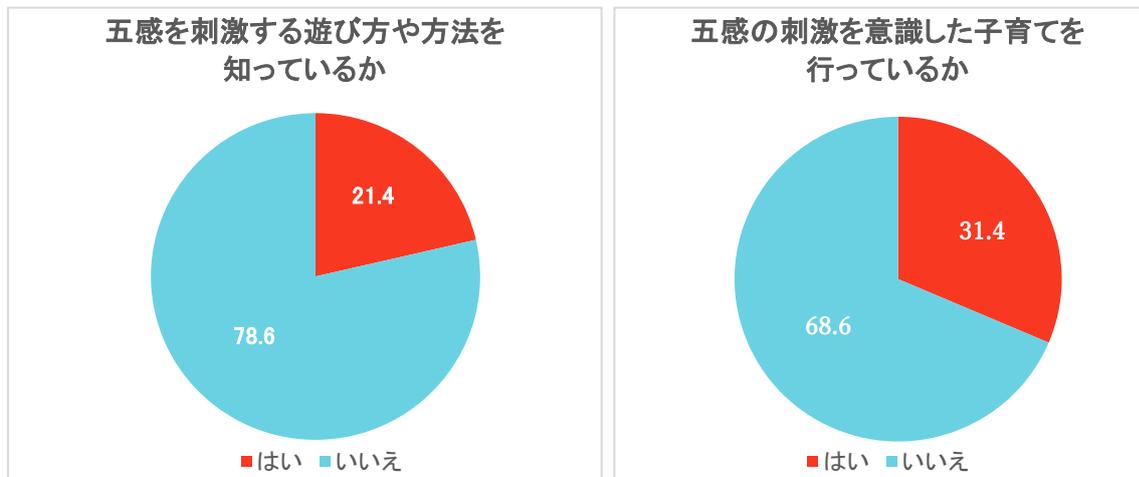


3. 約 80%のママパパが五感を刺激する遊びや方法を知らず、
さらに約 70%は、五感の刺激を意識した子育てを行っていないと回答。

2才以下のママパパの考える、五感を刺激する行動第1位は「おもちゃで遊ぶ」。

多くのママパパが子どもの五感刺激の重要性を感じている一方、78.6%は五感を刺激する遊び方や方法を知らないと答えました。また、五感の刺激を意識した子育てを行っていないと回答したママパパは68.6%となりました。この結果から、五感を刺激する子育てを行いたいと思いつながらも、どのように取り組めばいいかわからず取り組めていない家庭が多いことが伺えます。

さらに、0～9才の子どもを持つママパパが考える、子どもの五感を刺激すると思う行動としては、「おもちゃで遊ぶ(68.6%)」、「自然のある場所へでかける(66.6%)」が多くなり、それぞれ65%以上が回答しました。特に0～2才の子どもを持つママパパの回答としては、どの年齢でも第1位は「おもちゃで遊ぶ」という結果になり、おもちゃによって五感を刺激したいと思っていることが分かりました。

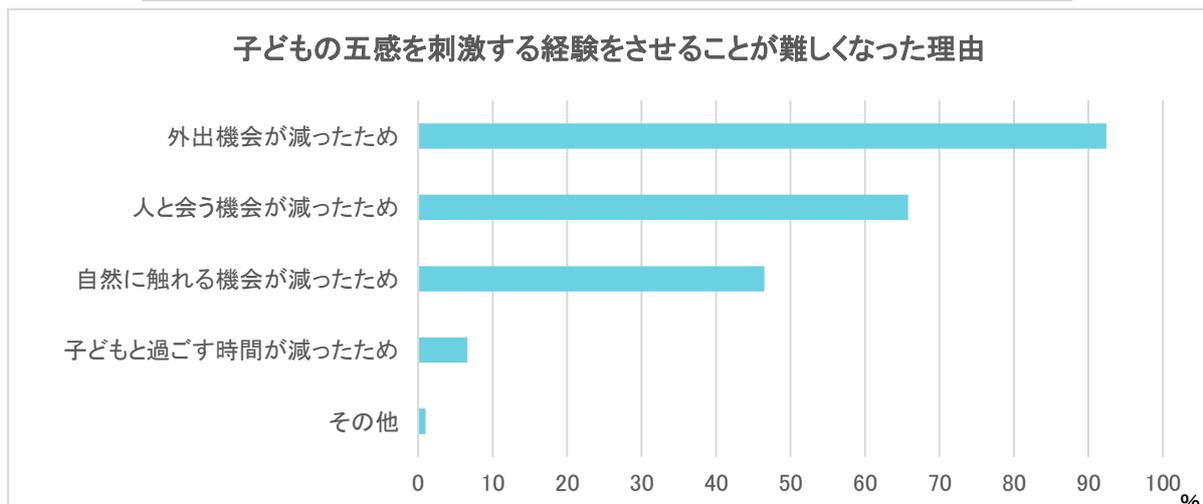
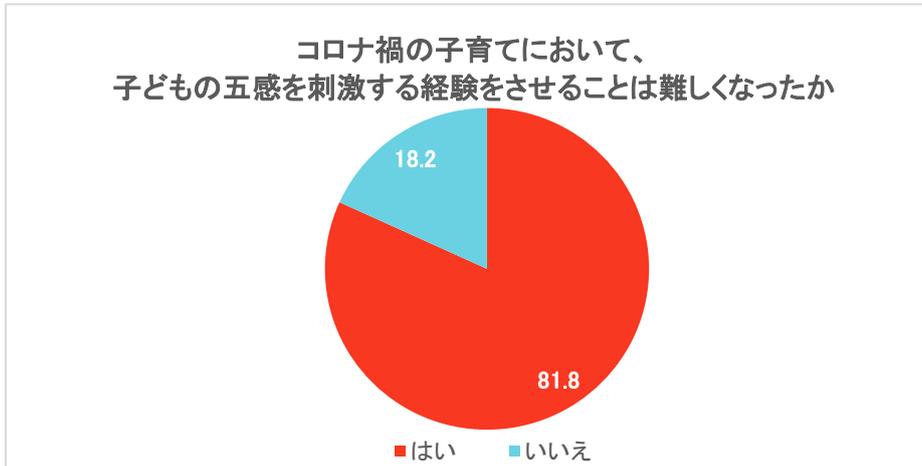


	0才の子どもを持つ親	%		1才の子どもを持つ親	%		2才の子どもを持つ親	%
1位	おもちゃで遊ぶ	80.0	1位	おもちゃで遊ぶ	78.0	1位	おもちゃで遊ぶ	86.0
2位	音楽を聞く	72.0	2位	親子で話す	74.0	2位	絵本を読む	70.0
3位	親子で話す	70.0	3位	音楽を聞く	68.0	3位	自然のある場所へ出かける	70.0
4位	絵本を読む	68.0		自然のある場所へ出かける	68.0	4位	親子で話す	66.0
5位	自然のある場所へ出かける	62.0	5位	絵本を読む	66.0		砂場で遊ぶ	66.0
	手遊びをする	62.0					手遊びをする	66.0

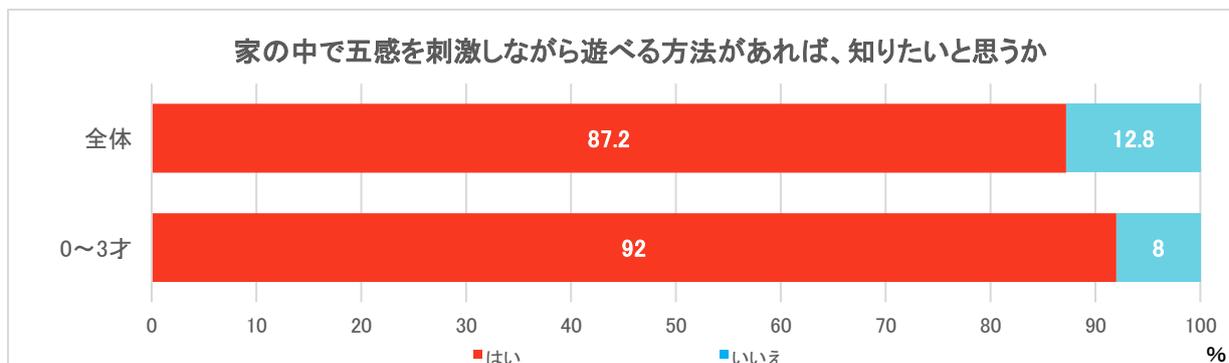
4. コロナ禍において、80%以上のママパパが子どもの五感を刺激する経験が難しくなったと回答。
「外出機会の減少」などのコロナ禍の子育てならではの悩みが原因に。

さらに、0～3才のママパパの90%以上が家の中で五感を刺激できる遊びを取り入れたい！

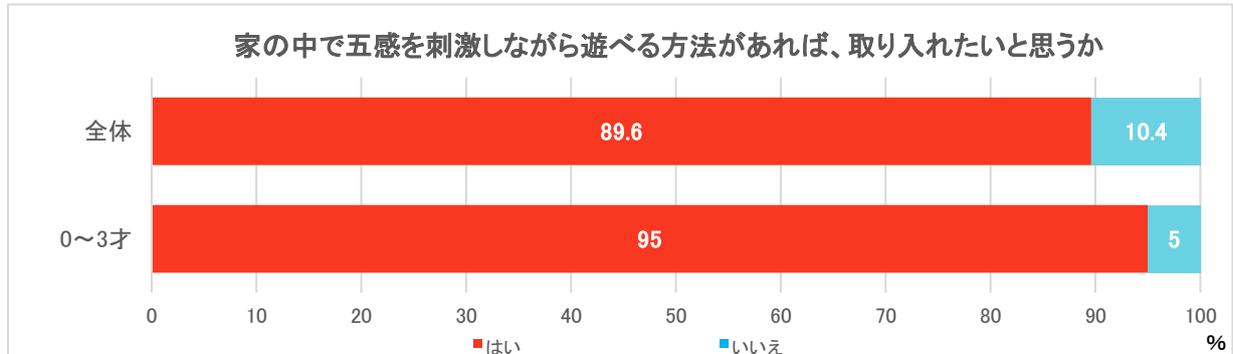
「コロナ禍の子育てにおいて、子どもの五感を刺激する経験をさせることは難しくなったか」について調査したところ、81.8%のママパパが「はい」と回答しました。また、難しくなった理由の第1位は「外出機会が減ったため」となり、コロナ禍特有の状況の中で、子育ての不安を感じていることが伺えます。



「家の中で五感を刺激しながら遊べる方法があれば、知りたいと思うか」という質問では、87.2%が「はい」と回答しました。特に、0～3才のママパパの92.0%が知りたいと答えており、子どもの年齢が低いママパパほど、家の中で五感を刺激しながら遊べる方法に関心度が高いことが明らかになりました。



また、89.6%が家の中で五感を刺激しながら遊ぶ方法があれば、取り入れたいと思っていることが分かりました。さらに、0～3才の子どもを持つママパパの95%が取り入れたいと回答しており、全体と比べても家の中で五感を刺激しながら遊ぶ方法を求めていることが明らかになりました。幼いうちから家の中でも五感を刺激し遊ぶ方法をより広めていくことが大切になっていると伺えます。



フィッシャープライスについて

フィッシャープライスは、1930年に誕生し、2020年に90周年を迎えたマテル社のベビー・プリスクールおもちゃブランドです。世界 No.1*の売り上げ、シェアを誇り、世界150か国以上で販売されています。フィッシャープライスは、お子さまに安心して遊んでいただけるよう、安全性と耐久性を重要視し、世界の安全基準をすべて検証して、一番厳しいものに合わせています。毎年400以上の新たなアイデアについて、年間2,500人以上の子どもたちとそのママ・パパが商品開発に参加しています。

公式サイト:http://mattel.co.jp/toys/fisher_price/

*THE NPD GROUP/G12/2020/USD

マテル社について

マテル(Mattel)グループは、玩具およびファミリー向け製品のデザイン、製造、マーケティングにおける世界的リーディング企業です。マテル社のベストセラー・ブランドとして、史上最も有名なファッションドール・バービー(Barbie®)のほか、ホットウィール(Hot Wheels®)、きかんしゃトーマス(Thomas & Friends®)、フィッシャープライス(Fisher-Price®)、メガブロック(MEGA® BLOKS)に加え、様々なエンターテインメントから着想を得た玩具ラインがあります。マテル社は、2015年に『Ethisphere Magazine』の「World's Most Ethical Companies(世界で最も倫理的な企業)」に選ばれ、2014年に『Corporate Responsibility Magazine』の「100 Best Corporate Citizens」で第5位に選ばれています。全世界の事業を統括する本社をカリフォルニア州エルセグンドに置くマテル・グループは、150以上の国で製品を販売しています。

公式サイト:<http://www.mattel.co.jp/>

お客様からのお問い合わせ先
マテル・インターナショナル株式会社

カスタマーサービスセンターTEL:03-5207-3620<受付時間10時～16時月～金(土・日・祝日除く)>



参考資料(調査結果詳細)

SQ8.あなたは、日常的に五感の全てを意識して使っていますか？

※五感とは、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚です。[SA]

	%
Base	500
意識して使っている	39.2
意識して使っていない	60.8

Q1.五感を意識することは大切だと思いますか

	%
Base	500
はい	89.6
いいえ	10.4

Q2.五感を刺激するために行っていることはありますか？ [MA]

	%
Base	500
自然に触れる	56.0
おいしいものを食べる	46.0
運動をする	37.2
リラックスする時間をつくる	36.2
音楽を聴く	30.2
新しいことに挑戦する	18.4
マッサージをする	16.4
アロマセラピーをする	5.6
その他	0.4
特にしていない	25.4

Q3.五感を刺激することは子どもにとって大切だと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	95.8
いいえ	4.2

Q4.五感を育てるのに最も重要な年齢は何歳だと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
0～1歳(乳幼児)	30.2
2～3歳(幼児)	53.4
4～6歳(未就学児)	13.8
7歳以上	2.6

Q5.子どもに五感を刺激する経験をしてほしいと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	94.6
いいえ	5.4

Q6.五感のうちどの感覚を刺激することが重要だと思いますか？ [MA]

	%
Base	500
触覚	77.8
視覚	75.4
聴覚	68.6
味覚	59.6
嗅覚	52.6

Q7.五感を刺激する遊びや方法を知っていますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	21.4
いいえ	78.6

Q8.五感の刺激を意識した子育てを行っていますか？あるいは行っていましたか？ [SA]

	%
Base	500
はい	31.4
いいえ	68.6

Q9.子どものどのような行動が五感を刺激すると思いますか？ [MA]

	%
Base	500
おもちゃで遊ぶ	68.6
自然のある場所へ出かける	66.6
音楽をきく	63.8
親子で話す	62.4
絵本を読む	59.8
砂場で遊ぶ	56.4
手遊びをする	55.6
動物と触れ合う	55.6
ご飯を食べる	52.0
だっこをする	47.8
表情を見せながら遊ぶ	47.4
新しい人と会う	37.6
テレビや動画を見る	32.2
その他	2.4

Q10.コロナ禍の子育てにおいて、

子どもの五感を刺激する経験をさせることは難しくなつたと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	81.8
いいえ	18.2

Q11.前問で「はい」と答えた方に質問です。なぜ難しくなつたと思いますか？ [MA]

	%
Base	409
外出機会が減つたため	92.4
人と会う機会が減つたため	65.8
自然に触れる機会が減つたため	46.5
子どもと過ごす時間が減つたため	6.6
その他	1.0

Q12.家の中で五感を刺激しながら遊べる方法があれば、知りたいと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	87.2
いいえ	12.8

Q13.家の中で五感を刺激しながら遊べる方法があれば、取り入れたいと思いますか？ [SA]

	%
Base	500
はい	89.6
いいえ	10.4